

こども連絡会事業計画進捗状況

期間：令和元年9月～12月

小牧市障がい者計画	目的・ねらい	事業内容	実績、参加人数	参考：第3次障がい者計画	参考：第5期障がい福祉計画、第1期障がい児計画
ネットワークの構築	① ライフステージにおける切れ目ない支援 ② 関係機関の情報共有、課題整理、連携	(9/25) ○療育支援事業と合同企画・研修会～支援の必要なお子さんの対応について～	参加者：31名 (内：放課後児童クラブ職員8名) 講師：花井玲奈氏（愛知県医療療育総合センター地域支援課） 会場：小牧市公民館	P40(1)	P40(1) ⑤
障がい児支援 早期療育の充実	① ライフステージにおける切れ目ない支援 ② 相談支援事業所への情報提供と障害児通所事業所相互の質の向上を目指す	さんの対応について～ ・放課後児童クラブでの困りごとについて意見交流会		P41(2)	P40(1) ⑤、P41(4)、P64(1)
子ども・子育て支援における障がい児の受け入れ推進	保育園・幼稚園・こども園・児童クラブ・放課後子ども教室等における障がいのある子どもへの理解と適切な受け入れ促進	(11/27) ○あさひ学園職員に「児童発達支援・放課後等デイサービス学習会」の実施	参加者：20名 会場：あさひ学園	P42(4)	P55(1)、 P65(1)、 (2)
学校との連携	乳幼児期から学校また卒業後の就労、生活の場を知り合い、繋がり、連携する	(10/8) ○支援が必要な子どもの性教育に関する研修会	参加者：88名 (内：市内小・中学校教師52名参加) 講師：伊藤修毅氏（日本福祉大学発達学部准教授） 会場：味岡市民センター	P42(6)	P40(1) ⑤、P41(4)
防災への取組み	災害時に事業所同士が助け合い、障がい児、家族、地域住民を支援する為の情報共有	(11/12) ○第2回こども連絡会・小牧市の医療的ケアについて意見交換	参加者：38名（全体） ・児童デイサービス事業所2グループ、医療的ケアに関する機関の3グループに分かれて討議	P50(3)	
医療的ケア児等の支援	医療的ケア児が在宅生活を支える体制を作っていく	・困難ケースや日々の困りごとについて意見交換		P40(1)	P40(1) ⑤、 P45(5) ③
サービスの質の向上	サービス事業者等の質の向上			P41(3)	40(1)④、 P41(3)

☆こども連絡会課題点

①外国籍の方が多く福祉サービスを利用する中、言葉の問題があり、アセスメントや契約の際に困ることがある。 ⇒ 通訳の充実。（国際交流協会との連携、翻訳機の活用）	
②医療的ケア児への対応。小牧市内には医療的ケアに対応できる事業所がない。⇒ 次年度に定期的に検討会の実施を予定。医療的ケアコーディネーター養成研修への参加。 在宅診療所への訪問及び在宅医や看護師の話を聞き、学ぶ。	
③障がいの疑いのある子が放課後児童クラブに通うことがあり、対応に苦慮されるケースがある。 ⇒ 放課後児童クラブと福祉サービスとの連携や相互の理解促進を進める必要がある。	
④こども連絡会が乳幼児期、学童期、思春期の0歳から18歳までとライフステージの幅が広く、また、児童デイサービスや子どもに関わる支援機関、保護者の会と参加者も幅広い。ひとつひとつの課題の共有が難しい。⇒ 連絡会内で年代別、課題別に検討を実施。 事業所のみでの意見交換会を実施。	
⑤乳児時に障がい診断があると保育園の受け入れができず、働く親が困るケースがある。⇒ 令和元年、保育園の看護師の配置に着手。	